各種新聞圖解の内

日新真事誌

八年　第卅七號

天然痘の流行ゆへ。痘瘡神の鬧急く輙で走り歩行ゐや。這所彼所ゆて怪き魔神と載る車夫のありとい。風説ハ嘘ゐ本所ある緑町より浅草迄のせる客い十四五歳ゐて。未ざ荷も軽症き少女あしゞ。茅町辺へ来ア〜ときゝ。灯と點んと車と置小戻〜る其隙ゑ。彼の娘い消失て。輓の賃も紅の紙ゆて作まる四手立〜。南無三俵の残りしを。是痘瘡の厄神ゆること疑あ〜と無根き。虚ゑ訛と傳ゐる未関の俗民ゆ。種痘の上首と奉戴せて。可愛い子供ゑ菊石と雷め。或ハ失明ゑするふあんど。家父慈母該児とも。合せて三人三驫鹿と書さ赤紙と戸ゑ張ゐ。愚昧と布ゐる看板ある廼し

木挽街の隠士

轉々堂主人録

日新真事誌37号　文庫10-8303(5)
早稲田大学図書館蔵／Waseda University Library